

(語学研究部)

1月10日に、多賀城市大代地区公民館で行われた「多文化共生事業：お正月あそび1」に参加しミャンマーの技能実習生と交流をしました。この行事は、大代地区公民館と宮城県国際化交流協会の主催によって、地域の方々と技能実習生とのつながりを目的としているものです。すごろく・かるた・福笑い・書き初め・羽根つき(バドミントン)を一緒に楽しみながら、多文化共生のヒントを学ぶことができました。



【参加した生徒の感想】

今回の交流会では前回の交流会とは違った目線で交流することができました。地域サポーターの方々が実習生に遊びを説明している時や、一緒に遊ぶときに易しい日本語で話したり、ミャンマーの話題を出したりと、外国の方と交流する時に参考になることを学ぶことができました。また、今までの交流活動とは違って体を動かして一緒に活動することは親睦を深めるのに良いやり方だと思いました。今後の交流でも今回経験したことを生かして工夫してできるようにしたいと思います。

(2年 小野 遙生)

ミャンマーの方たちは、みんな優しくて接しやすかったです。また正月遊びは初めてと言っているながら、上手で強く、バドミントンでは接戦、かるたでは大敗しました。日本の遊びを通して交流しながら国のことを尋ねたりするだけでなく、逆に外国の遊びを通して交流するような活動を実施したいなと思いました。

(2年 幾世橋 遼)

コミュニケーションをとるのに、簡単な日本語を使うことを意識して交流しました。日本のお正月遊びを通して、改めて文化の違いを感じ、互いに尊重することの大切さを知りました。例えば、ミャンマーのお正月は水を掛け合う等、この機会ではもっと外国文化に

興味を持つことができました。

(2年 三浦 誠鈴)

高校生になってからは年末年始も忙しくお正月遊びの機会がほとんどなかったので、新鮮な気持ちでミャンマーの方々と一緒になって楽しむことができました。今までいろいろな活動をしてきたおかげか、易しい日本語を使った会話も楽しくできたので自身の成長を実感できたのが良かったです。

(2年 玉川 淳之介)